

「ヨーロッパ建築から学ぶ森林資源活用型木造建築」 公開講演会

国内の森林資源の活用促進の一環として、これまでの戸建住宅の他、公共性の高い非戸建建築の木造化が求められている現状にあります。それに伴い、日本における建築分野では多層階木造など中大規模建築の実現が先端的テーマと位置づけられています。一方九州、特に中山間地域で進む急激な人口減少、地方経済の後退をはじめとする様々な構造的問題が深刻化しており、今後、社会構造のダウンサイジングは不可避と考えられる。

このような背景の中、今回はヨーロッパの木造建築の歴史や地域資源の利用に詳しい法政大学の網野禎昭先生をお呼びし、九州における持続可能な社会の実現のための木造建築と地域材利用の在り方を考える機会としました。網野先生は国策となっている CLT 建築の設計にも携わるほか、製材所で放置されていた木材を使った住宅建築でグッドデザイン賞ベスト 100 を受賞されるなど、地域材利用の木造建築のこれからの在り方を示唆した建築を実践されています。

貴重な機会ですので、是非とも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

共催: 木と建築で創造する共生社会実践研究会(A-WASS)九州支部、

木材加工技術協会九州支部

日時: 9月6日(水) 15時から17時

題目: 「ヨーロッパ建築から学ぶ森林資源活用型木造建築」

演者: 法政大学 教授 網野禎昭 氏

場所: 九州大学農学部3号館114教室 (福岡市東区箱崎、最寄り駅は地下鉄貝塚駅)

参加費: 無料

(講演会後、会費制で交流会を計画します。当日ご参加を募集します。)

木造建築の多様化に挑戦する

古来、私たちは地球上の資源を建築材料という形に変質させて建物や町をつくっています。継続的に住みやすい建築環境をつくってゆくためには、建物のつくり方と自然のバランスが取れていることが重要です。このような視点で標準化・工業化という現代建築のつくり方を見たとき、使いやすい資源だけを選びすぐてはいないだろうか？ 廃棄できないほど素材を加工し過ぎてはいないだろうか？ という疑問が生じます。自然素材は多様なものです。であれば建築のつくり方も多様であっていいはずです。(出典：法政大学 網野 禎昭 教授 (建築構法研究室) ホームページより)

■講師プロフィール

網野 禎昭 氏 (あみの よしあき)

1967 年生まれ。静岡県出身。

1999 年 スイス連邦工科大学建築土木環境工学部 アシスタント

2004 年 ウィーン工科大学建築学部 アシスタント・プロフェッサー

2010 年 法政大学デザイン工学部建築学科教授、ウィーン建築家協会設計競技専門員、オーストリア政府交通技術革新省助成・中高層木造プロジェクト委員。

主な受賞歴/2005 年 オーストリア・シュバイクホフナー賞、2015 年度グッドデザイン賞 ベスト 100「新築住宅[木のカタマリに住む]」